



研修報告



§ 第4回在宅における感染予防対策研修会 §

テーマ:新型コロナウイルス感染症の在宅における感染予防対策について～今後の備えと対策～

令和3年7月20日(火)15時～16時30分に開催、昨年度に引き続き、神戸市立医療センター中央市民病院 感染管理認定看護師 小倉明子氏にご講演いただきました。参加者は21名(オンライン)でした。

COVID-19の発生状況、変異株、ワクチンについてのお話のあとに動画を見ながら、具体的な対応策を教えてくださいました。

対応策として、マスク、手指消毒、換気の重要性、訪問時の个人防护具の選び方、着脱の場所、方法やワクチン接種後も従来の感染対策を継続する必要があること等を学びました。

参加者からは「動画をみて消毒の回数に驚きました」「基本を従順に実施していきたいと思いました」「今日の講義を聞いて気を引き締め直し、引き続き感染対策に励みたいと思います」等のご感想をいただきました。



§ 第5回中央区在宅医療介護連携研修会 §

テーマ:円滑なコミュニケーションのために～新しい生活様式で大切にしたいコミュニケーション～

令和3年8月25日(水)14時～15時30分にソーシャルネット三祐 社会福祉士の吉田三祐氏にご講演いただきました。参加者は17名(オンライン)でした。

コロナ禍では感染の恐怖や新しい生活様式により利用者、支援者ともに生活や行動、心理状況に変化が起きていることを客観視することの必要性和円滑なコミュニケーションをとるために今まで以上に表情や視線、ジェスチャー等のノンバーバル(非言語)コミュニケーションを意識することの重要性をお話いただきました。

参加者からは、気づきや実践したいこととして「自分が思っている以上にオーバーリアクションをすることが必要」「視覚情報と声のトーンが大切」「ノンバーバルコミュニケーションを身につける訓練」等の回答をいただきました。

§ 第6回中央区在宅医療介護連携研修会 §

テーマ:在宅看取りを支えるために知っておきたい制度～事例をもとに成年後見制度や死後事務を学ぶ～

令和3年9月14日(火)14時～15時30分に中央区医師会会議室とオンラインで開催、参加者は48名でした。一人暮らしで在宅看取りの支援を行った事例について、しあわせ訪問看護ステーション 管理者 山本みどり氏にご報告いただきました。続いて、くすのき法律事務所 弁護士 平野晃子氏から成年後見制度、死後事務委任契約、財産管理等委任契約等の制度についてお話いただきました。

参加者アンケートでは「一人暮らしの在宅看取りの支援で困ったことがある」と回答された方が多く、制度の把握と活用への関心の高さと必要性が伺われました。「ご本人様の意向などをしっかりと確認する」「相談窓口を知ったので、困ったことがあれば積極的に相談していきたい」「今後のために役立てられる情報と思いました」「多職種が集まることで解決への糸口が見つかるのだと実感しました」等のご感想をいただきました。



2021年
10月1日第15号

【発行】
中央区医療介護
サポートセンター

【住所】
神戸市中央区磯上
通3-2-17-6F
中央区医師会内

TEL:078-272-3001
FAX:078-272-3002
担当 辻村・羽原

中央区医療介護
サポートセンター
便り

中央区医療介護サポートセンター便りは
年4回(4月7月10月1月)の発行です

サポートセンターホームページのご案内

<https://kobe-iks.net/>

各区サポートセンターの紹介やお知らせ、
研修案内、活動報告等をご覧いただけます
ぜひ、ご活用ください



医療介護サポートセンターでは、医療・介護等の専門職を対象とした在宅医療・介護に関する研修会を開催しています。研修会での気づきや学びを今後の実践に活かしていただけましたら幸いです。

円滑なコミュニケーションのために



新しい生活様式によるマスクの着用やオンライン会議の実施等により、円滑にコミュニケーションをとることが難しいことがあります。内閣府が行った意識調査※でも、テレワークのデメリットとして「社内での気軽な相談・報告が困難」「取引先等とのやりとりが困難」「画面を通じた情報のみによるコミュニケーション不足やストレス」と回答した人が多くいました。

円滑なコミュニケーションを図るために鍵となる『意識すること』やポイント等をご紹介します。

※内閣府ホームページ：新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査結果より

マスク着用時は通常よりも「大きな声でゆっくり」と話す！
表情によって伝えていた気持ちの伝達が難しくなる。細かいニュアンスを伝えるための「言葉選び」も大切！

マスクを着けたコミュニケーションで今まで以上に意識したいこと

《ノンバーバル(非言語的)コミュニケーション》

- ・表情、視線、ジェスチャー等
- ・話すときの声のトーン、話す速度
- ・会話中に笑顔で頷くことで、言葉に出さなくても「同意」を伝えられる
- ・マスクを装着すると顔の半分近くが隠れてしまうため、感情(喜怒哀楽)を表現する
- ・オーバーリアクションは相手に伝わりやすい

ノンバーバル(非言語的)コミュニケーションは、画面越しでも大切です

～出典：第5回中央区在宅医療介護連携研修会 ソーシャルネット三祐 吉田三祐先生講演資料より～



「有効的な会議」にするためのポイント

- ① 発言者の内容を全員が理解しているかどうかを確認する
- ② 参加しているメンバーの様子を観察し、定期的に要点を再確認し合う
- ③ 「観察」や「再確認」、「積極的な発言を促す」ことを実践
- ④ 会議の目的(開始時)と決定内容(終了前)は、わかりやすく再度説明をする(参加者全員の参加意識を高める)

～出典：第5回中央区在宅医療介護連携研修会 ソーシャルネット三祐 吉田三祐先生講演資料より～

サポートセンターからのお知らせ

研修会のご案内

詳細が決まりましたら、皆様へご案内させていただきます
ご参加お待ちしております

第5回在宅における感染予防対策研修会

～新型コロナウイルス感染症の在宅における感染予防対策～

令和3年11月開催予定

第5波では多くの若年者が感染し、家庭内感染や職場内感染が起きました。感染を広げないために正しい知識と対応策の再確認を行い、現場での対応の振り返りとスキルアップの機会になればと思います



中央区病院病棟・地域連携部門担当者と訪問看護師と施設看護師との交流会(看・看・看交流会)

令和3年11月開催予定

コロナ渦での様々な制限等により、構築してきた連携システムがうまく機能しない状況にあります。交流会でお互いの状況を理解し、今後の連携について考え、取組みを共有できる機会となればと思います

第7回中央区在宅医療介護連携研修会～多職種で取組む入退院支援～

令和3年12月開催予定

コロナ渦での感染対策による面会制限等により、病院・在宅での支援の流れや役割が見えにくく、連携が図りにくくなっています。切れ目なくつないでいくために入退院支援について再確認、振り返り、考える機会にできればと思います

